

岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 114
2025.10

TOPICS

1

岡山大学と国際連合大学が国際交流協定を締結



10月20日、岡山大学において、本学と国際連合大学(国連大学)との国際交流協定(MoU)の調印式を行いました。鈴木綾国連大学上級副学長と那須保友学長が協定書に署名し、国連大学から山口しのぶサステナビリティ高等研究所(UNU-IAS)所長、堀尾多香同大学院プログラム事務局長、本学から三村由香里理事(企画・評価・総務担当)、横井篤文副学長(グローバル・エンゲージメント担当)が同席しました。

本協定を通じて、両大学は教育・研究・学生交流を含む幅広い分野での連携を強化し、持続可能な社会の実現に向けた貢献を目指すことで合意し、那須学長は「今後は特に、国連大学が世界12カ国に有する13の研究機関との研究連携や、大学院生のインターンシッププログラムの構築などを積極的に行っていきたい」と発言。鈴木上級副学長からは、これまでの本学の活動に対する感謝の言葉に加え、両大学間のさらなる連携の深化への期待が述べられました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14725.html

TOPICS

2

科学の未来を担う中学生・高校生を対象に 「2025サイエンストライアル」を開催

10月4日、岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室では最先端の研究の内容を実際に体験する「サイエンストライアル」を開催し、岡山県内外の中学生、高校生合計19人が参加しました。

顕微鏡を使った実験では、参加者が、パン、納豆、味噌などに含まれる微生物のにおいを確認したり、肉眼では見えない微生物を大学生と一緒に楽しく観察していました。

参加者からは「酵母が日常でどのように活用されているか知ることができたことが感慨深かった」、「クイズ形式で分かりやすかった」、「顕微鏡の使い方を丁寧に説明してくれて分かりやすかった」などの感想が寄せられました。また、「大学生の自己紹介や大学生との交流が楽しかった」、「生物、化学の面白さに気付きました」など、大学への興味・進路選択の参考につながったとの感想も多く寄せられました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14695.html

Pick up!

令和7年度秋季岡山大学入学式、大学院入学式を挙行



本学は10月1日、秋季入学式を創立五十周年記念館で行い、新たに入学したグローバル・ディスカバリー・プログラム学生27人と大学院生102人が大学生活へのスタートを切りました。

式では那須保友学長から「SDGsを推進する研究大学において学ぶ皆さんが、友人や仲間、そして私たち教職員とともに多くの新たな知を得て、革新的な発見や技能、応用力を世界に向けて創出・発信していくことを、心より期待しています」と英語で式辞がありました。

新入生を代表して、グローバル・ディスカバリー・プログラムのSRIVASTAVA Ananyaさんが「ここに、私たちは岡山大学の価値観を守り、社会の向上のために知識を深めることに尽力することで、その遺産を尊重することを誓います。私たちは、これからの新たな目標に向かって、どんな逆境も成長の機会に変えるという揺るぎない決意で進んでいきます」と宣誓しました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14647.html

TOPICS

3

本学事務職員が岡山日経懇話会で講演 カーボンフットプリントを起点とした新たな価値創造について

本学研究・イノベーション共創管理統括部産学連携課の船倉隆央主査が、9月26日、「岡山日経懇話会」月例会で、「カーボンフットプリントを起点とした新たな価値創造」をテーマに講演しました。

船倉主査は社会人学生として本学大学院社会文化科学研究科(博士前期課程)にも在籍していることから、大学職員としての実務と大学院生としての研究を有機的に結びつけながら、地域や学生を巻き込んだ新しいイノベーション創出のモデルを提示しました。

船倉主査は、「CFPIはCO₂排出量という『数値の可視化』にとどまらず、製品・サービスの特徴を映し出す鏡であり、過去を振り返り未来を描く物語の出発点であり、多様なステークホルダーをつなぐ共通言語として意味付けがなされる時、初めて『価値創造の起点』になる」と強調し、「今後も学生や地域企業とともに、カーボンフットプリントを軸にした新たな価値創造に挑戦していきたい」と抱負を述べました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14643.html



TOPICS

4

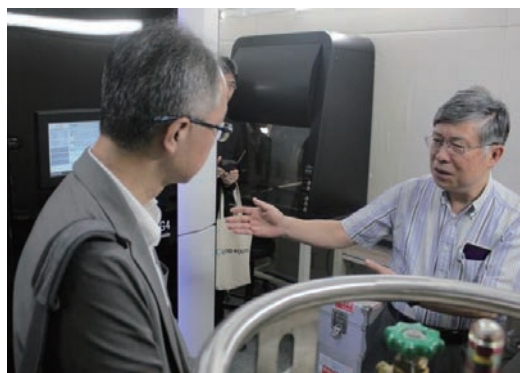
内閣府の永澤剛参事官が 異分野基礎科学研究所およびKIBINOVEを視察

10月17日、内閣府の永澤剛参事官(統合戦略担当)が本学を訪れ、異分野基礎科学研究所および共創イノベーションラボ(きびのべ: KIBINOVE)を視察しました。

学術研究院先鋭研究領域(異分野基礎科学研究所)の沈建仁教授、沼本修孝准教授、蔡弼丞助教が異分野基礎科学研究所のクライオ電子顕微鏡・KIBINOVEのクライオトモグラフィについて説明しました。すでに機器共用をしているクライオ電子顕微鏡に加え、クライオトモグラフィの機器共用に向け、メーカーからトレーニングを受けていること等を紹介しました。

永澤参事官からのメーカーについての質問に対し、クライオ電子顕微鏡とクライオトモグラフィについて同じメーカーから購入していることや、メーカーを統一することで、規格を一致させ、失敗率を下げていること等を説明しました。また、クライオトモグラフィの操作の難易度についても質問があり、新しい型のため、グラフィック的に操作ができ、比較的わかりやすいことや、試料を取り出さずに実験を進められることで劣化を防ぐことができること等の紹介がありました。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id14735.html



PRESS RELEASE

不妊と歯周病が関連する！ ～不妊原因としての歯周病原細菌感染の可能性～

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科歯周病態学分野の永田千晶客員研究員、同大学学術研究院医歯薬学域(歯)歯周病態学分野の大森一弘准教授、高柴正悟教授、三宅医院・不妊治療・生殖医療センターの三宅貴仁院長らの研究グループは、不妊治療中の患者さんは、歯周病原細菌の一つであるPorphyromonas gingivalis (Pg菌)の感染度が高いこと、そしてPg菌を感染させた歯周病マウスモデルを用いた動物実験において、雌性マウスの子宮に異常(肥大化)が生じて、出生数の減少、胎児の低体重化といった悪影響が出ることを世界で初めて確認しました。

今回の研究成果は、口の病気である歯周病が、これまでに報告されていた早産・低体重児出産だけではなく、不妊環境の構築にも関与する可能性を示唆するものです。少子化が進む現代社会において、不妊治療の成功率を高めていくことが望めます。そして、不妊治療の成功だけではなく、授かった新たな命が無事誕生することも重要です。そのためにも、口(くち)の環境を妊娠活動または不妊治療開始前までに整えることが重要であることをあらためて提案するものです。

参考 https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1451.html

